

でもあつて仲々意味深の存在である。敢て金にせずさりげなくと金を置いた点心惜しい。(金だと注意を集めて考へる為)

58番には成飛車を殺す意味で同馬右は当然である。94飛成と犠牲にして14飛と躍り出し、よろめく玉に十字砲火のパンチを与えてノックアウトする。手際は仲々鮮かであるが、参考図を見た事のある詰棋人には58番はパツと閃く(?)手筋なので印象はまず〜と云う所?

第二十六番

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			香					一
			香					二
			香					三
			香					四
			香					五
			香					六
			香					七
			香					八
			香					九

持駒 飛角金

- 3 五金(1)同 玉、4 五飛、3 四玉、2 五角(1)同 金、3 五飛、2 三玉、2 五飛(1) 3 二玉、2 四桂(1) 3 三玉、

- 3 二金、3 四玉、3 五金、2 三玉、12 桂成、3 二玉、22 飛成、4 一玉、5 二銀、同 歩、4 二歩、5 一玉、3 一龍迄25手詰

変化

- (1) 同玉の所33玉なら24金、42玉、33金 同飛、同金、同玉、24角以下。
- (2) 同金の所23玉なら43飛成、33合、同龍同玉、43香成以下。
- (3) 2玉の所①33玉は35飛、42玉、32金 53玉、54金迄。②24香合は同飛、32玉 35香、33合、43香成、同玉、54金 32玉、43金以下。③24桂合は同飛、32玉、22金、42玉、34桂以下
- (4) 33玉の所23玉なら22金、同玉、12桂成以下。

☆25玉と出られては詰まないから34金は当然で以下35飛迄は一連の手筋。この手筋は看寿がオリジナルであるが随分模倣され使い古された感じである。始めての人には参考になるだろう。

却つて新鮮に感じられるのは24桂跳の方でこの一手は指し難い。重要な

第二十七番

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			銀					一
			銀					二
			銀					三
			銀					四
			銀					五
			銀					六
			銀					七
			銀					八
			銀					九

持駒 なし

役割を果たした桂を二段に活用するのは流石に看寿である。最後は63銀を一役買つて終束となる。綺麗に纏つた短篇だと思ふ。

- 53角成(1) 6 三歩、6 五金、同成桂、73 成銀、同 玉、65 桂左、7 二玉、(A) 62 銀成(1) 同 香、6 一馬(1) 同 玉、5 三桂、7 二玉、7 三歩、同 玉、7 五飛(1) 7 四歩、65 桂打、7 二玉、7 四飛、同 馬、7 三歩、同 馬、同 桂成、同 玉、7 四歩、7 二玉、8 三角、8 二玉、73 歩成、同 玉、6 五桂、8 二玉、74 角成、9 一玉、6 四馬、同 歩、8 三桂、8 二玉、

71 桂成、同玉、8 二金迄43手詰

変化

(1) 63歩合の所①香合は本手順と同じ。

- ② 金合なら65金、同圭、73全、同玉 65 桂左、72 玉、63 馬、同玉、53 桂成 同玉、65 桂打、52 玉、42 金以下。

(2) 同香の所同金は同馬(同香は73金、61玉、41飛成、51合、53桂)同玉、53 桂成、同玉、65 桂、52 玉、53 歩、62 玉、54 桂、72 玉、73 桂以下。

(3) 同玉の所同金なら73桂成、同玉、75 飛、74 合、65 桂、72 玉、73 歩以下。

(4) 7四歩の所角合は65桂、72玉、74飛 同馬、73歩、同馬、同桂成、同玉、84角、72玉、83角、82玉、92角成、同玉、93歩成以下。

紛れ

(A) 62銀成の手で73桂成とすると同玉、65飛、64桂合で不詰

☆本図の眼目は玉方に桂を渡さぬ様巧 妙な手順で攻めを計るにある。その 目的は後で玉方に桂を合駒されては 困るからである。第17番と同じ狙い と云える。

問題の難は九手目62銀成と61馬、53 桂生の所である。ここは紛れにも記 した通り直ちに73桂成、同玉、75 飛 と攻める落し穴がある。誰でも自然 に一度はやって見る手順だ。すると

玉方は74桂合で虎口を脱する。ここ は歩合をさせてその歩を入手したい 所で、これより前に玉方に合駒の桂 を持たせてはならない訳だ。以上の 様な訳で攻方は右翼より62銀成以下 桂を渡さぬ様に攻める。是が本局の 構成だ。

看寿の偉さと云うか巧さは、頭の中 で得た構想を至妙な妙手で実現する 点である。始めに述べた構想も着想 としては困難ではないのだが、普通 の手段では凡庸なものになってしま う。本作品がすばらしいのも62銀成 から61馬が単独妙手でも素晴らしい 手で、発見困難な妙手だからであら う。紛れ順に落ち込んだ人も、仲々 紛れ順と対比して本手順を着想出来 る筈でそこにこの作品の難かしさが 有る。

参考図 (文政版図巧)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			銀					一
			銀					二
			銀					三
			銀					四
			銀					五
			銀					六
			銀					七
			銀					八
			銀					九

持駒 なし

尚本局とか17番の様に玉方の合駒制 限の為に特別な攻め方をする作品は 極めて少く、筆者は他に二三題の作 品を知るに過ぎない。この点でも記 憶に値する作品と云えるだろう。

◎異図考
本局は一般には次の図で知られて居 る。この図は文政年間に出版された

将棋図巧にあるもので文政年間のも のが宝暦版の原本よりも新しいので この図が一般に伝えられて居る様で あるが、本図には鳥村六段の指摘す る次の早詰があり掲載図(宝暦版原 図)が正しいと思われる。詳細は次 の一文を参照されたい。

第二十九番

9	8	7	6	5	4				
星	香	王	馬	龍	金				
香	王	馬	龍	金					

持駒 角桂桂桂

打っては成りして玉を左端迄さそい
83番以下追戻す所。
古典作と云えば(故土屋健氏の晋葉
を借りて)眉を引き濃厚な白粉を付
け十二単衣よろしく裝飾たつぷりな
厚化粧をした作品が多い中にこれは
又何と清楚な作品であろうか。妙手
と云えば13角、24飛の二手位であ
は廿級子でもスラ／＼であろう。趣
向と云つても一寸創作をやつた人な
ら考え付いた事のあるような着想だ
それで居ながら何となくスガ／＼し
い感じを与えるのは極めて少駒数で
趣向部を構成した事と埋め草の様な
無駄手を省いて簡潔な構成とした事
によるのであろう。

- 9 六馬(1) 7 三玉、6 五桂(同) 飛生、
8 五桂(1) 7 四玉、9 3 桂生、7 三玉、
8 四龍(同) 玉、7 三角、同 玉、
7 四歩、8 四玉、7 六桂迄15手詰
変化
 - (1) 87 番銀合なら76桂、73玉、85桂、74
玉、56角、65合、86桂迄。又87桂成
なら同龍、75玉、74馬、同玉、76龍
75合、85角、84玉、96桂以下。
 - (同) 飛生の所(1) 同飛成は74歩、同龍、
同馬、同玉、85角、65玉、55飛以下
(2) 同番なら64角、62玉、53角成以下
(1) 84玉なら76桂、74玉、73桂成、同玉
84角以下。
 - (2) 同玉の所同歩なら74歩、83玉、94
93玉、72角迄
- ☆ 図巧中只一局の双方不成局である。
現今(それも最近)でこそ双方不成も
大して珍らしくはなくなつたのであ
るが、当時としては珍品だったので
ある。江戸時代を通じて双方不成は
十題もない。
看穿が果して双方不成と云う「記録」
に意識して挑戦したのかどうかは明

第三十番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				香	龍	星	香	王	飛
				香	龍	星	香	王	飛

持駒 金 金

らかでないが、一応江戸時代作品中
では双方不成最短手数記録になつて
居る。(理論的に可能な最短手数は
7手詰であるが、現在迄に7手詰の
双方不成があつたかどうかは忘れ
た。しかし15手と云う記録は破られ
て居る筈)
それはさて二つの不成の内、65桂
(退路封鎖) 同飛生の方は常套的で
あるが、93桂生の方は面白い。これ
は変化(1)で74歩と94角の両方を可能
にする為で、効果は変化にだけ現わ
れる。終束の84龍と73角は豪放で、
やはり水準を破つた印象的な作品で
ある。

「早詰順」(島村俊雄六段指摘)
作意11手目61馬の手で62馬、同玉、
42飛成、52合、53桂成、73玉、74歩、
同馬、65桂打、72玉、73香、同馬、
同桂成、同玉、65桂、74玉、83角迄
◎ 図巧察問局について、伊佐坂棋印
昭和28年7月号の風ぐるま誌上で島
村主幹が図巧27番について察問を述
べて居られた。即ち11手目以下に早
詰順があり、これが看穿の見落しに
よるものかどうかと云うものであり
ます。

小生もその当時手に入る限りの図巧
を集めて調べて見ましたが、何れも
この余詰が成立する様でした。所が
先日某氏より拝借した将棋月報の昭
和15年8月号に「私の古名作鑑賞」
として杉木兼秋氏が図巧の解説をさ
れて居り、その第27番の図面は主幹
が掲載されたものと異り攻方72金が
成銀になつており、且つ玉方31銀が
配置されています。そして註として
「文化年間江戸中橋小路、西宮弥
兵衛の刊行せる将棋図巧には第廿七

番誤謬あるものの如し」とあります
から、この図面が杉木氏の修正図で
はなく看穿の原図である事は疑いの
ない処と思ひます。

尚江戸年間、図巧は宝暦と文政の二
回出版されているわけですので「註
」の中で文化とあるのは文政の誤り
と思われまます。そう云えば某氏から
お借りした原本も、小生の所持する
原本も文政版でしたし、棋友の写本
も文政版が種本となつて居るのでし
ょう。文政の方が宝暦より新しいの
で現在流布して居る図巧は文政版に
よる物が大部分の為、その誤りがそ
のまま広まったと考えると一応背け
ます。尚七二成銀としたのは初手に
対する銀合の不詰順を防ぐ為に献上
銀四枚配置したものです。

第二十八番

- 3 三銀(同) 歩、1 三角(同) 2 三玉、
2 四飛、同と、22角成、同 玉、
12 飛成、3 一玉、2 一金、4 一玉、
3 一金、同 玉、4 三桂、4 一玉、

第二十八番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								金	一
								飛	二
								歩	三
								銀	四
								歩	五
								香	六
								王	七
								星	八
								香	九

持駒 角桂桂桂

- 51 桂成、同 玉、6 三桂、6 一玉、
71 桂成、同 玉、8 三桂、8 一玉、
91 桂成、7 一玉、91 成桂、同 玉、
8 三香、7 一玉、82 香成、6 一玉、
72 成香、5 一玉、62 成香、4 一玉、
52 成香、3 一玉、42 成香迄39手詰
変化
- (4) 同歩の所(1) 同玉は34飛、43玉、61角
52合、55桂以下。(2) 15玉なら16飛、
25玉、43角、35玉、47桂以下。(3) 23
玉なら12角以下。(4) 13玉は12飛以下
(同) 23玉の所同玉は12飛以下簡単
☆ 淡泊な趣向詰である。趣向手順は12
飛成、31玉以下桂を打つては成り、

圖巧解説

二 峯 生 述

第二十七番

持駒 ナシ

	一	二	三	四	五	六	七	八	九
				角	飛	科	玉	香	
				飛	科	玉	香		

此圖に對する小生の研究は未だ甚だ不完全なものでありますが兎に角之を誌上に發表して況く讀者諸君の御高見を御うかがいたいと思ひます
先づ原書記載の詰手順に就いて變化を解説しませう

五二角成、六三歩間、六五金同成桂
七三金同、玉六五桂左、七二玉
六二銀成、同、香六一馬、同、玉
五三桂不成、七二玉、七三歩、同、玉
七五飛、七四歩間、六五桂打、七二玉
七四飛、同、馬、七三歩、同、馬
同、桂成、同、玉、七四歩、七二玉
八三角打、八二玉、七三歩成、同、玉
六五桂行、八二玉、七四角成、九一玉
六四馬、同、歩、八三桂打、八二玉
七一桂成、同、玉、八二金打也
變化
イ六三歩間の所
(一) 六三香打ならば前記本文
の手順及後に記す餘詰の手順を
參照すべし
(二) 六三香行ならば六五金
同成桂、七三金引、同、玉、六五桂左、七
二玉、六二銀ナル、同、金、同、馬、同、玉、四
二飛ナル、以下容易に詰む
(三) 六三金間ならば六五金同

成桂六三馬同、玉七三金引、同、玉六
五桂左、六三玉七三金打、五、四、玉六
六桂打にても容易なり
(四) 六三飛間ならば前記三に
準ず
(五) 六三銀間ならば六五金全
成桂、七三金同、玉六五桂左、七二玉
六三馬(甲)同、玉五、四、銀打(乙)同
玉六六桂打、六三玉五三桂ナル
(丙) 七二玉七三歩同、玉七五飛、七
四歩、六五桂行、七二玉、七四飛、同、馬
七三歩打、同、馬、全、桂ナル、同、玉六二
角打、全、金、全、銀不成、同、香八三金打
甲六三同、玉の所、六三同、香ならば
七三銀打、六一玉、五三桂不成、五、一
玉、四一飛ナル也
乙五、四同、玉の所、七二玉ならば
四二飛ナル(丁)六二角間、同、銀ナ
ル、同、香八三角打、八二玉、九二角ナ
ル、同、玉六二龍、八二間、九三香打、八
一玉、七三桂不成の詰あり

丙七二玉の所五三同玉ならば

五四步打六三玉四三飛ナルの詰あり

丁六二角間の所に種々變化あれど難解ならず

□六二同香の所同金ならば同馬同香七三金打六一玉四一飛ナル五一間五三桂不成にても容易なり

ハ六一同玉の所同金ならば
七三桂ナル同玉七五飛七四間六五桂七二玉七三歩打七一玉八一歩ナル也

二七四歩間の所七四角間ならば
六五桂打七二玉七四飛同馬七三歩打同馬全桂ナル同玉八四角打七二玉八三角打八二玉九二角ナル同玉九三歩ナル九一玉七三角ナル也

ホ七三同玉の所九一玉ならば
九二角ナル同玉九三歩ナル同玉八三と九四玉八四と也

桂七三成銀同玉六五桂七二玉六二銀ナル同金同馬同玉五三桂ナル同玉六五桂行五二玉五三歩打六二玉五四桂打の詰あり
(三)六三金間ならば六五金同成桂六三馬同玉七三成銀同玉六五桂左六三玉五三桂ナル同玉六五桂打五二玉四二金打六三玉四三飛ナル也

(四)六三飛間ならば六五金同成桂六三馬同玉七三成銀同玉六五桂左六三玉五三飛打五二玉五三飛ナル也
□六二同香の所同金ならば
同馬同玉五三桂ナル同玉六五桂行五二玉此時五三金打にても五三歩打にても容易に詰む

ハ、ニ、ホの變化は前記の手順に合す

○此圖に於て六二銀ナル同香六一馬同玉五三桂不成の手順は實に

○本局は前記の如く巧妙なる傑作でありますが、局中最も妙味ある六二銀ナル同香六一馬の所に餘詰があるやうに思はれます
即ち六二同香に對し六一馬と指さすに同馬と指す時は次の詰手順があるやうです

六二銀成同 香 同 馬イ同 玉
四二飛成五二香間五三桂成ロ七三五
七四歩打同 馬 六五桂打七二玉
七三香打同 馬 同 桂成同 玉
六五桂行七四玉 八三角打也
變化

イ六二同玉の所同金ならば
七三香打甲同金同桂ナル同玉六五桂行六二玉四二飛ナル五二香間七三金打六一玉五三桂不成にても詰む
甲七三同金の所六一玉ならば
四一飛ナル五二香間七二香ナル同玉五一龍七二玉八一龍也

妙味津々たるものがあります若し六二銀ナル所に七三桂ナル同玉七五飛と指せば七四桂間と指されて逃れとなりませす

イハロ字詰

丸山正爲

前號の拙圖□の字エの字に對して岡山縣瀧谷氏兵庫縣佐々木氏三重縣奥坂氏等から御丁寧なる芳書を戴きました御定義に依り再考致しますに何れも早詰手順を生じてをります早速訂正を試みて見ました所字形と云ふ限度がある爲に一つの駒でさへ容易に位置を換へる事すら出来ませんので□の字の如き全然改作をせねば不可らしく思つて居ります前々にも述べました如く他にも訂正圖が二三御座いますから全部を終つてから右圖等と共に

再掲をお願いして凡作乍完結致したいと存じて居ります願ひ見れば昨夏七月號より御目障を續くる事早くも半歳餘本號で四十二局次號で終了の心算であります
前號に四局御手数を煩じました本局の姉妹圖たるイハロ字形よりの局面も二十題程苦案を終り只今猶凡案を續けて居ります此圖もお笑草にお願する機會がありまじたら何卒お力添への程を呉々も願ひ申上ます御繁忙中にも拘わらず態々御報に預りました御厚情の程深く御禮申上ます

○此圖の解説は此所に止めたい充分の自信なくして之れ以上に深入りする事は無謀極まる事と思ひますが只之れ丈けではあまりに物足らぬ感がある、かつは讀者諸君の御研究を乞ふ爲めにも一寸愚見を發表して置く方が好都合かとも思はれますので次に記載する事に致しました

○此圖には玉方三、一銀が脱落し詰方七二金は成銀の誤植はないでせうか
斯くすれば本文の詰手順は前記の七三金の所が七三成銀と改まる丈けにて他は全く同一であります又變化は

イ六三歩間の所
(一) 六三香打ならば本文に合す
(二) 六三香行ならば六五金同成

□七三五の所七二玉ならば
五二龍以下容易に詰む

○此圖の解説は此所に止めたい充分の自信なくして之れ以上に深入りする事は無謀極まる事と思ひますが只之れ丈けではあまりに物足らぬ感がある、かつは讀者諸君の御研究を乞ふ爲めにも一寸愚見を發表して置く方が好都合かとも思はれますので次に記載する事に致しました

三六金 同 と 三五金 同 と
四六歩打同 と 三四角打同成桂
同 銀不成同香 五七桂打同 と
五四龍 同 玉 四三飛成同 桂
四五金打同 玉 四六香打五四玉
六五馬 同 と 四五銀打迄